

| | |
|---------------------|------|
| 第37回がん検診のあり方に関する検討会 | 資料 1 |
| 令和5年1月30日（月） | |

新型コロナウイルス感染症による がん検診及びがん診療などへの影響（2021年度評価）

厚生労働行政推進調査費補助金がん対策推進総合研究事業
「新型コロナウイルス感染症によるがん診療及びがん検診などの
受診状況の変化及び健康影響の解明にむけた研究」

国立がん研究センター 高橋宏和

2020年度の評価（1）

○がん検診受診者数への影響（地域保健・健康増進事業報告）

- 2020年度は、2017-2019年度平均と比べ、5つのがん種において受診者数はおよそ1-3割減少
- 個別検診と比べ、集団検診の減少幅がより大きい
- 胃がん検診が最も減少

○がん診療連携拠点病院等におけるがん登録数への影響

- 院内がん登録実施病院863施設の全登録数は、前年度と比較し594施設で減少（平均4.6%減、がん診療連携拠点病院等では平均5.3%減）
- がん検診発見数は、それ以外と比べ登録数の減少割合が大きい
- 特定警戒地域は、その他の地域と比べ一時的に大きく減少し、その後差は縮小
- 2020年の部位別増減率は、2016-2019年の4年平均と比べ胃・大腸・子宮頸・甲状腺・前立腺・皮膚などで減少

2020年度の評価（2）

○がん外科手術数への影響

- NCDデータによると、2020年の主要20外科手術数は前2年と比べ15%減少
- 胃がん、大腸がん、甲状腺がんほか小児鼠経ヘルニア、小児虫垂炎などが減少
- 膵がんのほか、成人虫垂炎、上行大動脈置換術などは変わらず
- 感染程度の高い地域は、他と比べ大きく減少



- 特に感染程度の高い地域において、症状のない疾患（検診に関わるがんを含む）ならびに緊急性が比較的低い手術数の減少が顕著

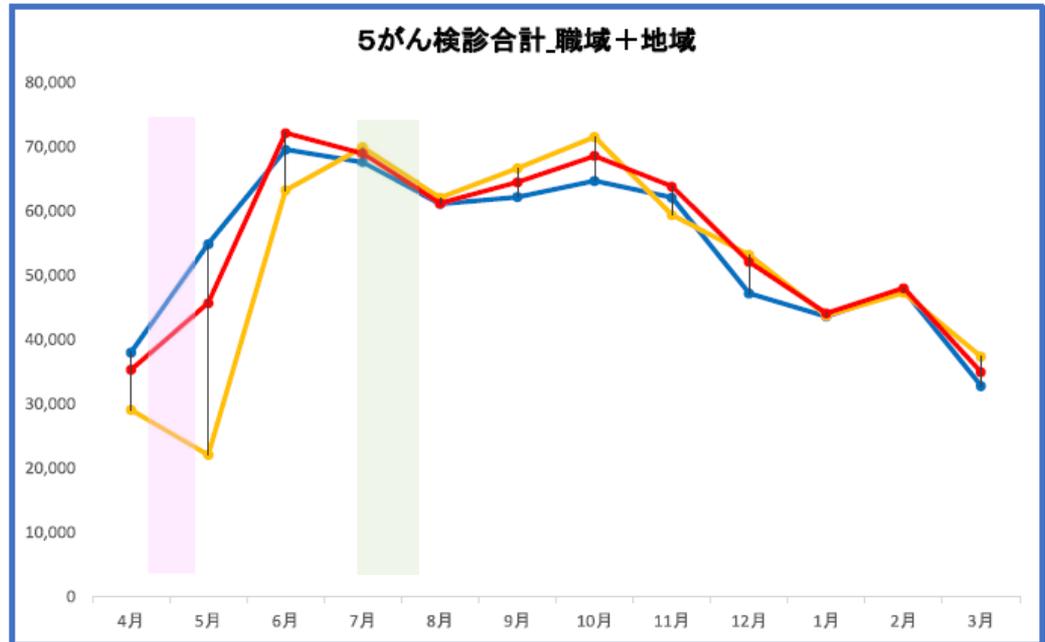
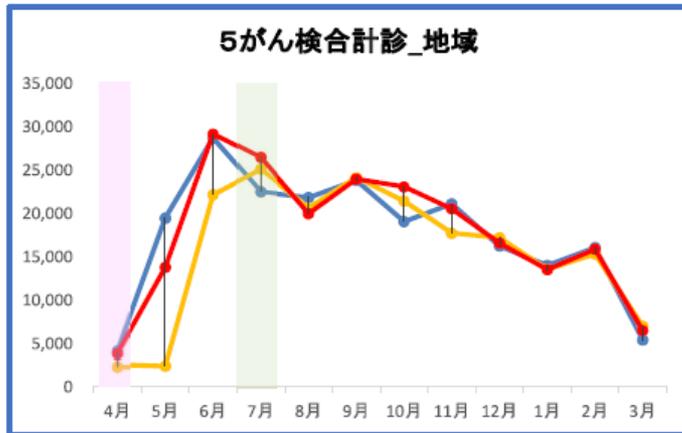
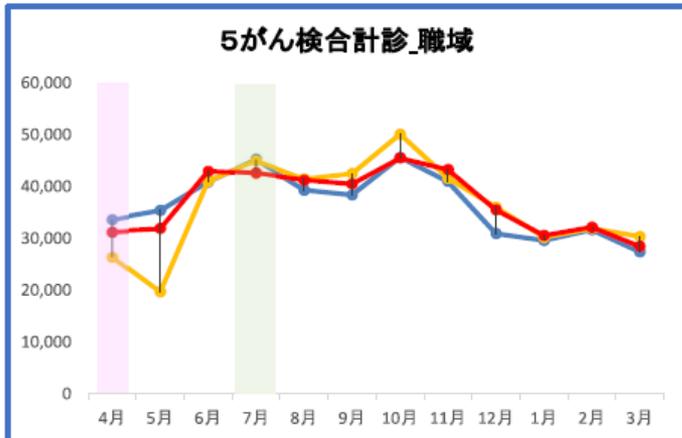
がん検診・がん診療受診者数減少の要因（2020年度）

1. 緊急事態宣言に伴う政府や専門学会の通知
2. がん検診実施者（市区町村・保険者・事業主）による実施延期・中止
3. 感染の恐れによる検診および医療の受診控え
4. がん検診実施機関・医療機関のキャパシティー減少

がん検診受診者数の推移（聖隷福祉事業団）

5がん検診合計

—●— 2019年
—●— 2020年
—●— 2021年

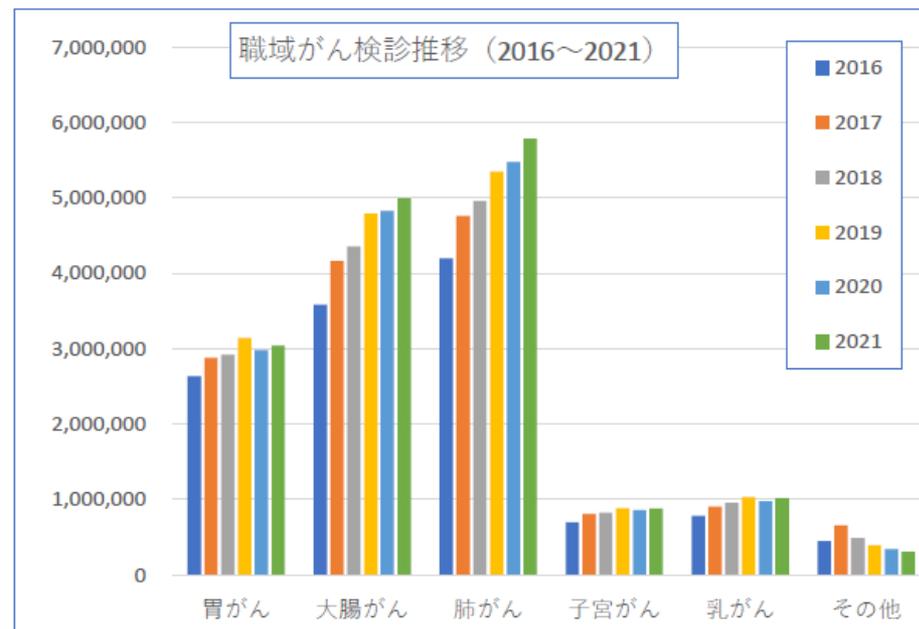
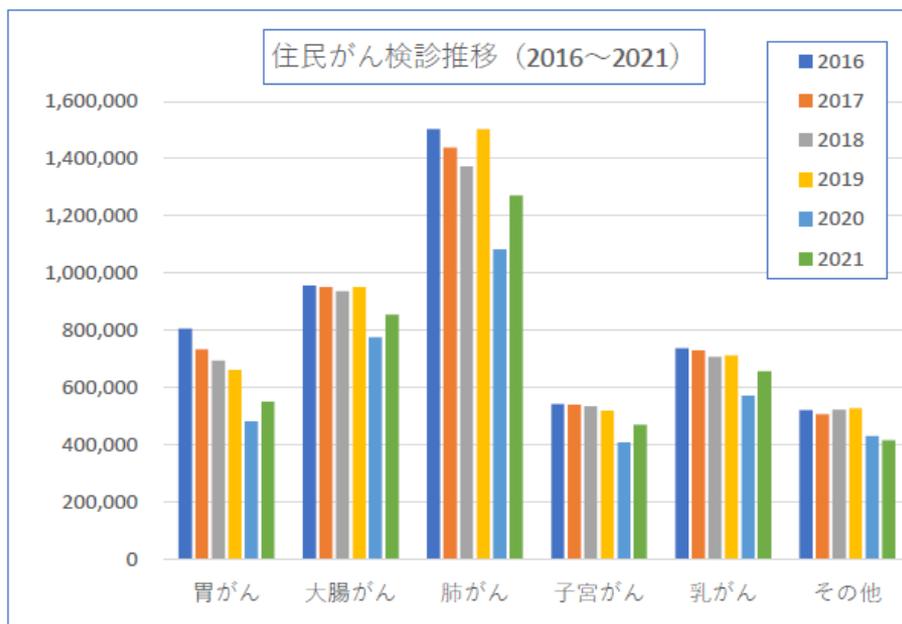


■ 1回目の全国緊急事態宣言（2020年4月07日～5月25日）
■ 直近の静岡県緊急事態宣言（2021年8月20日～9月30日）

社会福祉法人聖隷福祉事業団 保健事業部

住民検診：2021年度は2019年度と比べ0.5%増加（2020年度は10.9%減少）
職域検診：2021年度は2019年度と比べ1.6%増加（2020年度は0.6%減少）

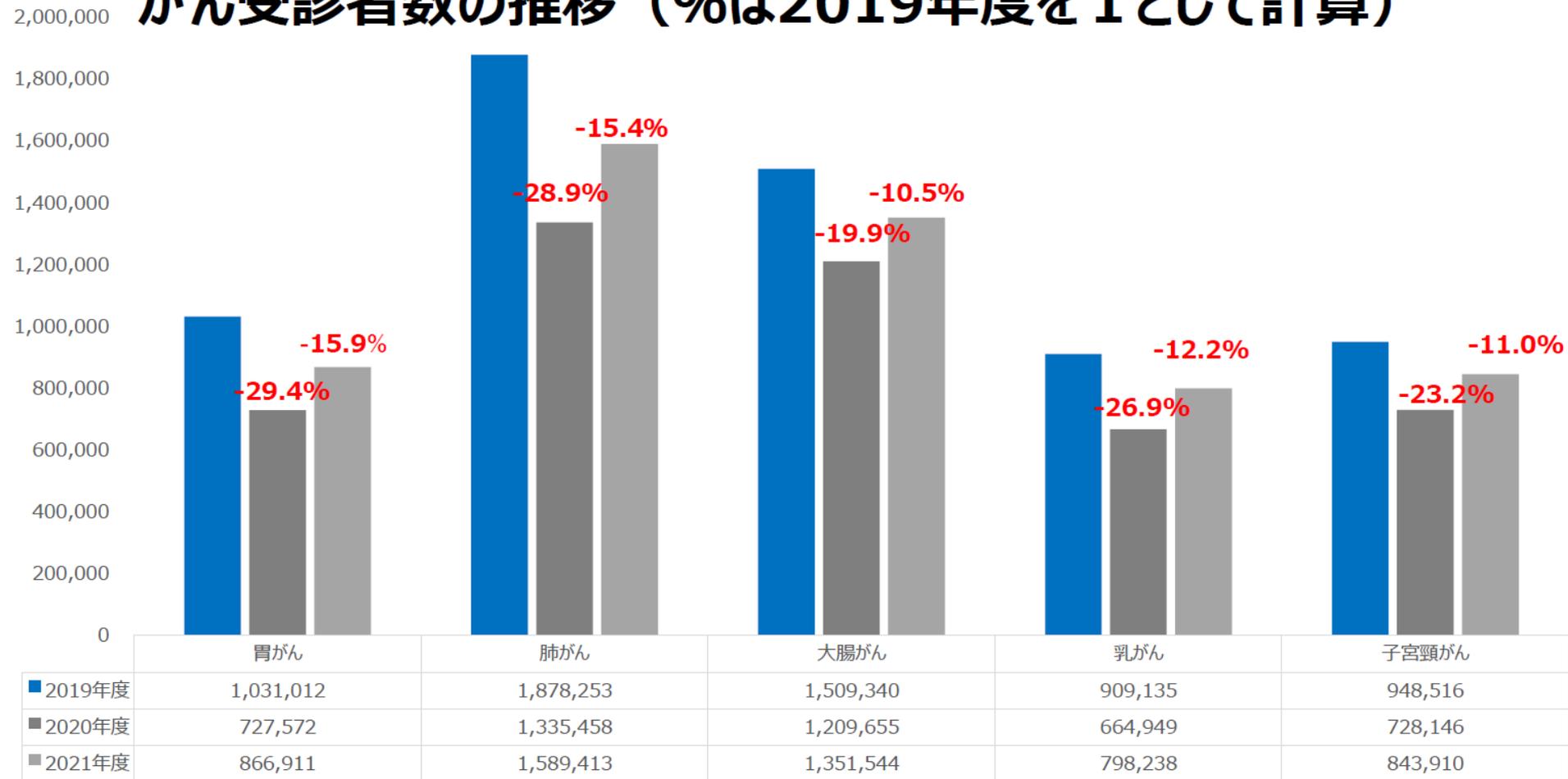
がん検診受診者数の推移（全国労働衛生団体連合会会員機関）



住民検診：2021年度は2019年度と比べ13.5%減少（2020年度は24.4%減少）
 職域検診：2021年度は2019年度と比べ2.7%増加（2020年度は0.9%減少）

がん検診受診者数の推移（日本対がん協会38支部）

がん受診者数の推移（%は2019年度を1として計算）



住民・職域検診：2021年度は2019年度と比べ13.2%減少
（2020年度は25.7%減少）

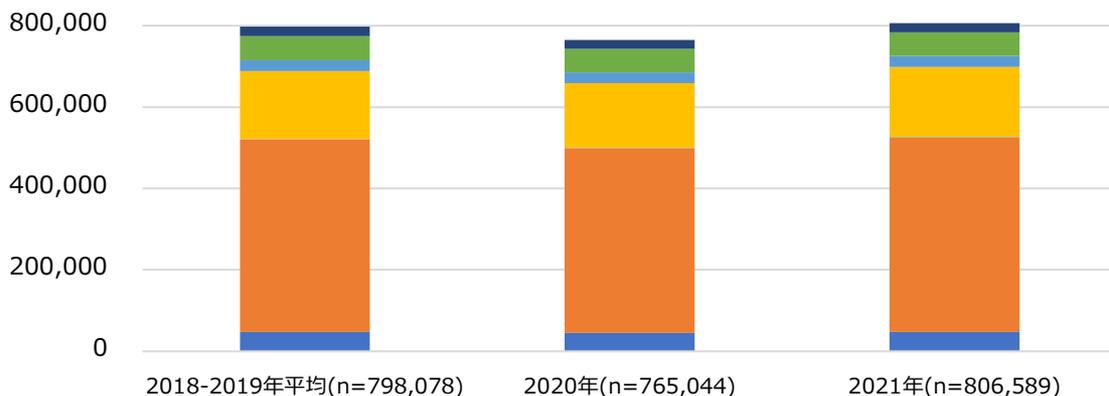
院内がん登録2018-2021年症例登録数推移

2021年1/1-12/31にがん診療連携拠点病院(以下、拠点)、小児がん拠点病院(以下、小児拠点)で診断された症例を2022年9月に収集

- 拠点：453施設(809,527件)、小児拠点：6施設(627件)
- 上記のうち、2018年以降継続してデータ提供があった施設に限定：455施設（うち小児拠点は6施設）
- 対象患者数：806,589名

2018-19年平均 vs 2020年 vs 2021年
症例登録数(症例区分別)推移

| | 2020年 | 2021年 |
|-------------|-------|--------|
| 2ヵ年平均登録数との比 | 95.9% | 101.1% |

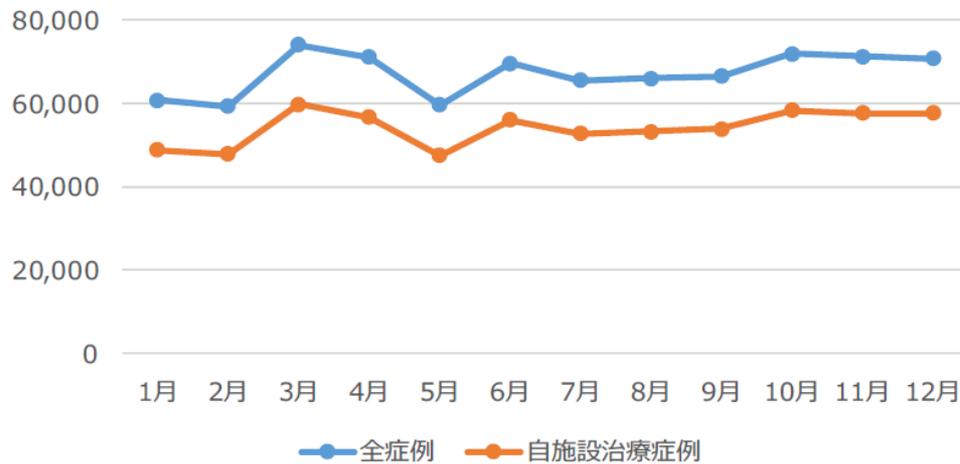


2018-19年の平均と2020,21年を比較
→2020年で減少し2021年は2018-19年並みに回復傾向

- 診断のみ
- 自施設診断・自施設初回治療開始
- 他施設診断・初回治療継続
- その他
- 自施設診断・自施設初回治療継続
- 他施設診断・自施設初回治療開始
- 初回治療開始後

診断月別登録数の推移

- 全がんにおける、診断月別登録数の推移(全症例、自施設初回治療開始例)



| | |
|------------|----------|
| 全症例 | 806,589名 |
| 自施設初回治療開始例 | 650,260名 |

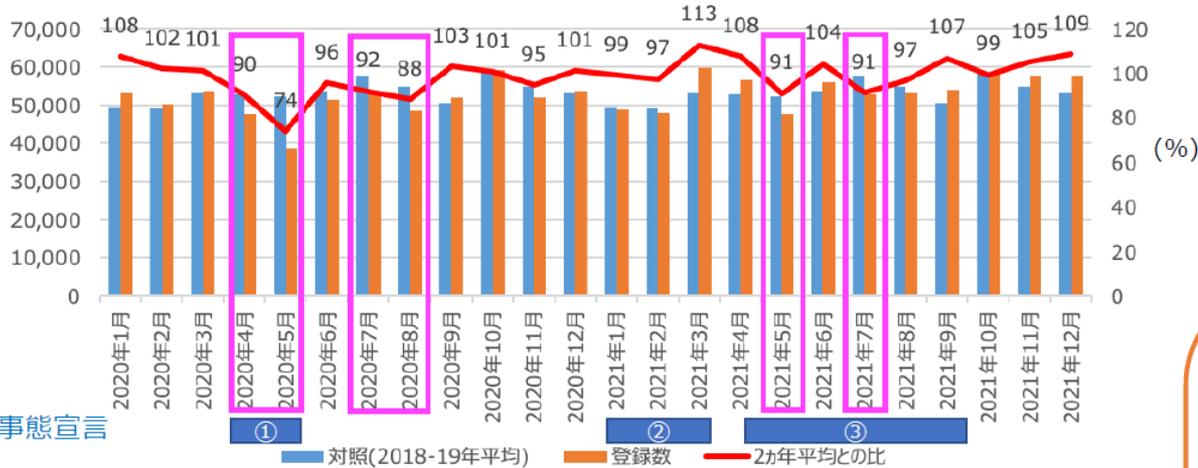
全症例と自施設初回治療開始例(症例区分 20/30)とで診断月別登録数の傾向に変わりはない



以降は、自施設初回治療開始例に限定して分析

診断月別登録数の推移

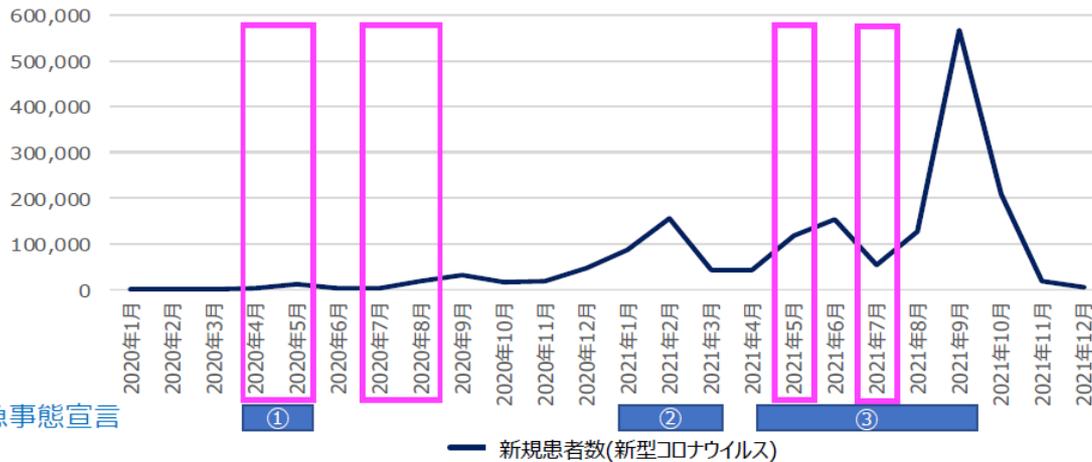
*自施設初回治療開始例に限定



| 全がん登録数 | 2018-19年平均との比 (%) |
|--------|-------------------|
| 2020年 | 95.7% |
| 2021年 | 101.6% |

- 新規がん患者数が最も減少したのは2020/4-5(緊急事態宣言①期間)
- 2020/7-8、2021/5、7はやや減少
- 2021/9以降は減少なし

⇒緊急事態宣言②と新規がん患者数減少は関係なし
 ⇒コロナ患者数が増加するとやや新規がん患者数が減少する傾向
 ⇒コロナ患者数と新規がん患者の推移を単一の理由で説明することは困難



診断月別登録数の推移（部位別）

2020年に2018-19年の2ヵ年平均よりも5%以上減少した部位：

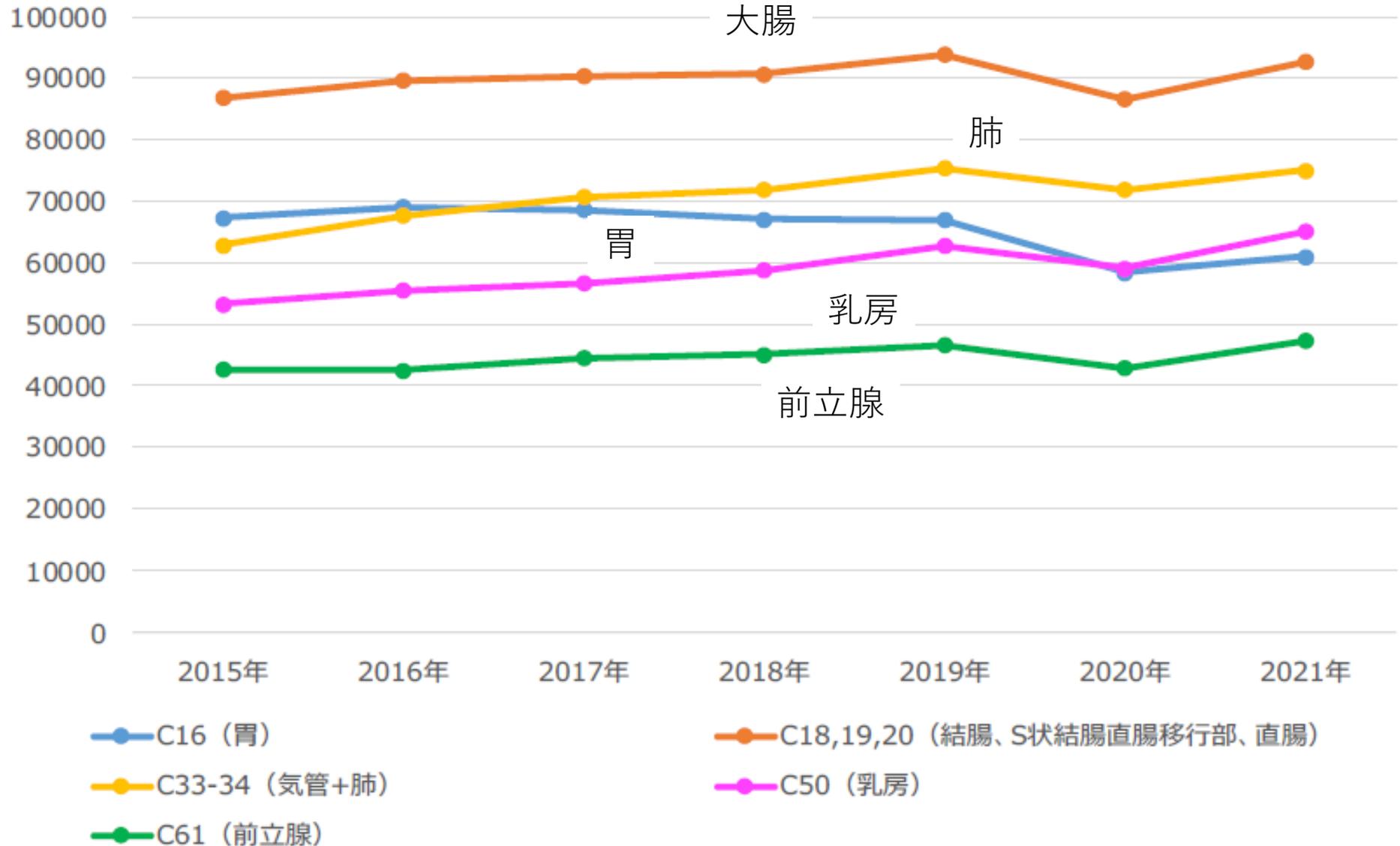
口腔、食道、胃、大腸、喉頭、子宮頸部、前立腺、脳神経、甲状腺、形質細胞

・2021年は多くの部位で2ヵ年平均程度まで登録数は回復

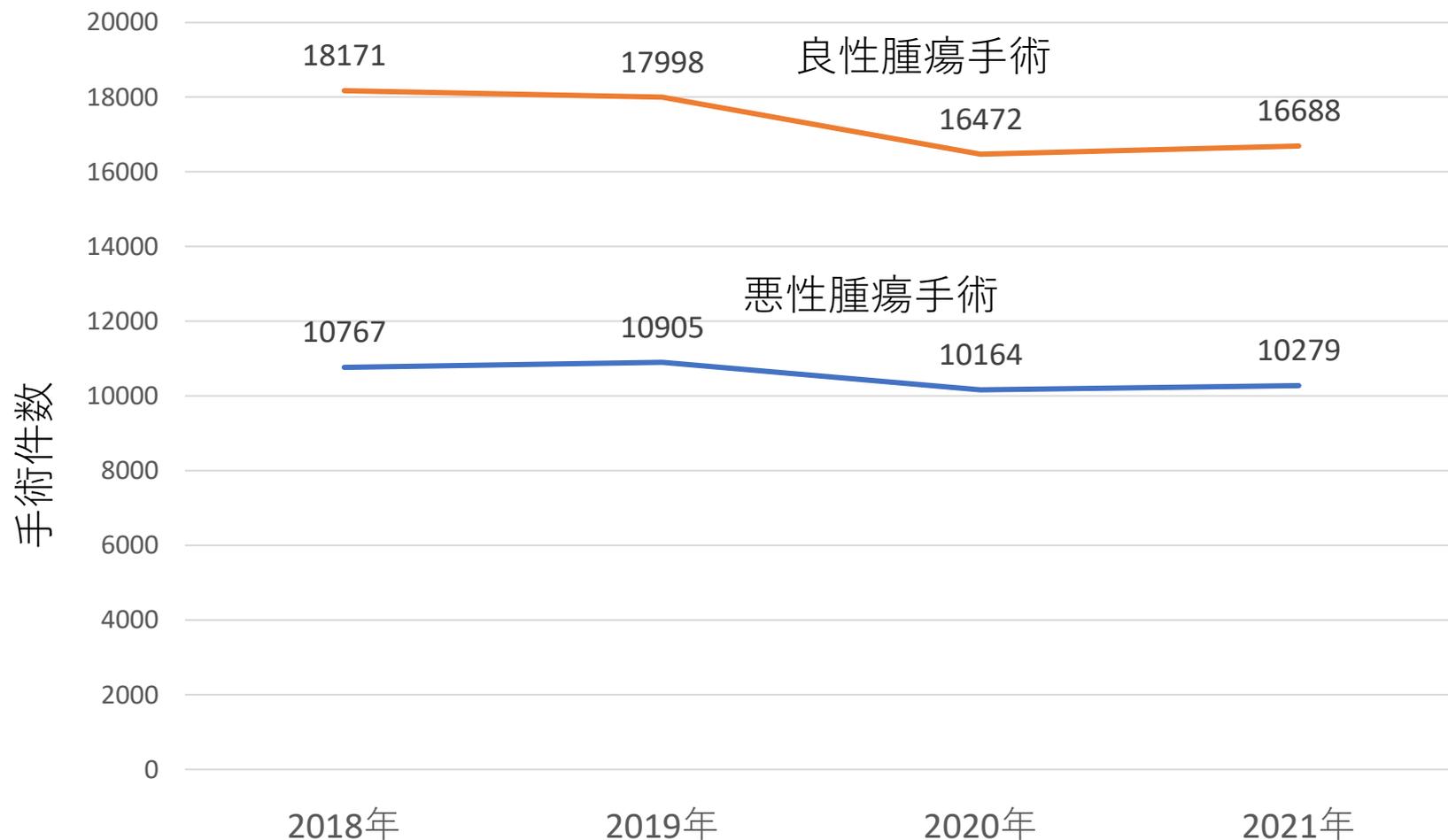
➤ 2021年に2ヵ年平均より5%以上減少した部位：胃、喉頭

➤ 2021年に2ヵ年平均より5%以上増加した部位：
膵臓、乳房、子宮体部、腎盂尿管、膀胱、白血病

2015-2021年における局在別がん登録数の推移 (胃、大腸、肺、乳房、前立腺)



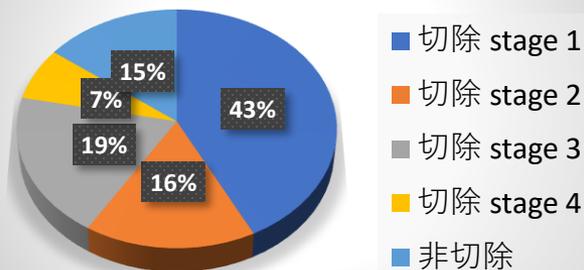
大阪大学関連施設における消化器外科手術数の推移



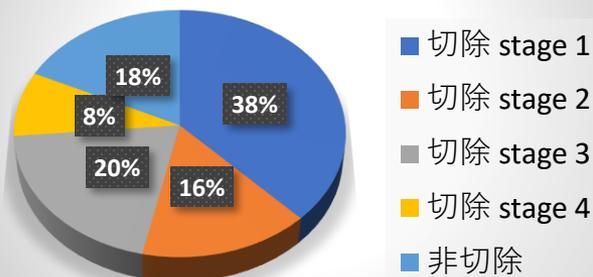
- 良性腫瘍手術・悪性腫瘍手術ともに2021年は2020年から微増であり、2018-2019年程度まで回復していない

大阪大学関連施設における全胃癌症例における ステージ割合の推移

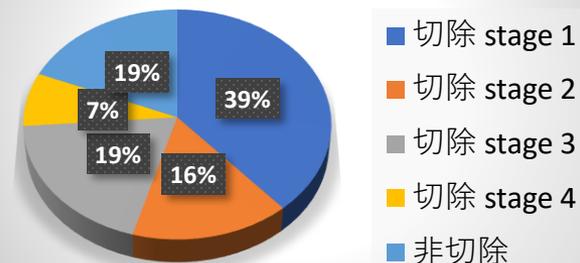
2019年全胃癌症例



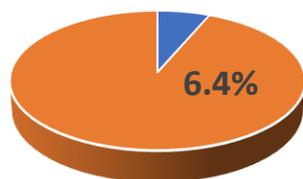
2020年全胃癌症例



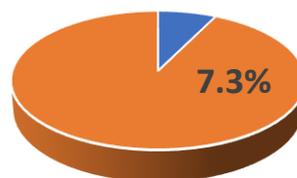
2021年全胃癌症例



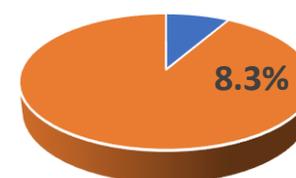
2019年術前化学療法割合



2020年術前化学療法割合



2021年術前化学療法割合



- 2019年と比べ2020年・2021年はstage 1割合が減少
- 2019年と比べ2020年・2021年は非切除および術前化学療法割合が増加

新型コロナウイルス感染症によるがん患者の受診行動への影響

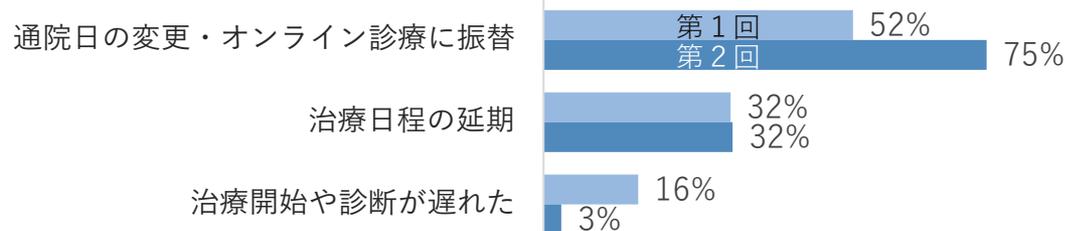
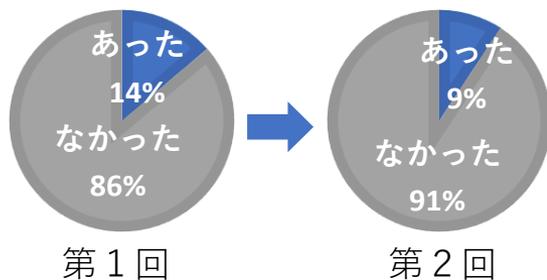
がん患者男女（40-69歳） に対するWeb調査

第1回：1920人 2021年12月実施 対象期間：2020年4月～2021年12月

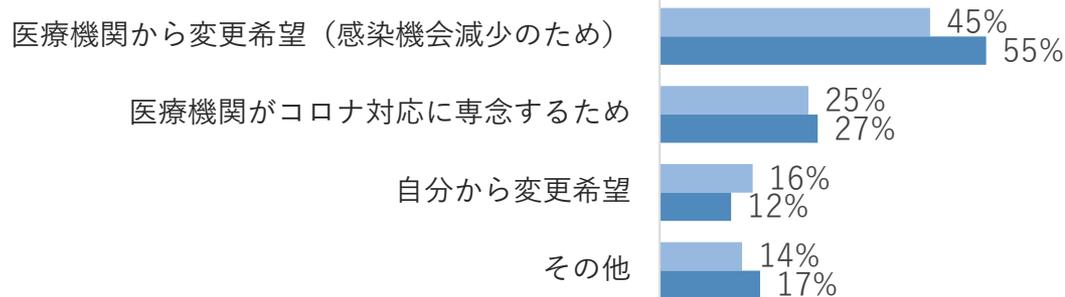
第2回：2000人 2022年11月実施 対象期間：2022年1月～2022年11月

Q2. Q1で影響があったと回答したうち
延期や変更の内容はあったか？

Q1. コロナの影響でがんの治療や
通院に延期や変更があったか？



Q3. Q1で影響があった理由は？



- 2022年は2020/2021年と比べがん治療や通院への影響は減少
- 治療開始や診断の遅れへの影響は減少

2021年度の評価（1）

○がん検診受診者数への影響

（聖隷福祉事業団、全国労働衛生団体連合会会員機関、日本対がん協会38支部）

- 2021年度は2020年度よりおおむね増加し、2019年度と比べ職域検診はほぼ回復、住民検診は1割ほど減少

○がん診療連携拠点病院等におけるがん登録数への影響

（2021年院内がん登録全国集計速報）

- 2021年の新規がん登録数は2018-19年平均と同程度まで回復
- 2020年に新規がん登録数が減少した分の顕著な増加は認めない
- 2021年に2カ年平均より5%以上減少した部位：胃など、5%以上増加した部位：乳房など
- 2018-19年平均と比べた進行期の割合について、2021年時点での評価は困難
- 2022年以降も新規がん登録数やstage別推移の評価が必要

2021年度の評価（2）

○がん外科手術数への影響

（大阪大学関連施設）

- 良性腫瘍手術・悪性腫瘍手術ともに2021年は2020年から微増したものの、2018-2019年程度まで回復していない
- 2019年と比べ2020年・2021年は胃がんstage 1の割合が減少
- 2019年と比べ2020年・2021年は胃がん非切除および術前化学療法割合が増加

○がん患者の受療行動に対するWeb調査

- 2022年は2020/2021年と比べがん治療や通院への影響は減少
- 治療開始や診断の遅れへの影響は減少

研究班からの提案：今後の対応策（再掲）

- モニタリングおよび分析の継続
- がん検診やがん医療へのアクセスの確保
- がん検診やがん医療に関する適切な情報提供
- 即時性のあるがん検診・がん罹患データ収集システムの構築